

特集Ⅰ

～平成28年産あんぽ柿について～

今年も安全・安心なあんぽ柿をお届けします

福島県のあんぽ柿といえば福島県の冬の果実を代表する品目になります。原発事故以降厳しい状況にあったあんぽ柿ですが、福島県あんぽ柿産地振興協会を設立し、放射性物質低減対策として樹体洗浄や幼果期検査による徹底した安全性への取り組み実施により出荷が再開し、今年度も無事出荷の時期を迎えました。

安全・安心対策として、幼果期検査の結果を踏まえた加工再開モデル地区（安全性を確保出来る地区）からの出荷と、専用のあんぽ柿非破壊検査機による放射性物質の全量・全袋検査を実施しております。27年度からはモデル地区に福島市を加えるなど大幅に広がり、加えて原料柿の移動が再開となった結果、震災前の約6割にあたる900t（伊達果実・商系等

の出荷含む）を達成する事が出来ました。

28年度からはこれまでの幼果期検査、製品の全量検査の結果を踏まえ、安全性を確保した上で市場及び消費者が待望していた個包装製品の出荷も開始となります。全体のモデル地区が更に拡大する事を踏まえ、震災前のお荷量の約80%相当である1,250t（伊達果実・商系等の出荷含む）の計画を立てており、より全国の皆様

に美味しいあんぽ柿をお届ける事が出来る運びとなりました。生産者が丹精込めて作った安全・安心・美味しい冬の味覚あんぽ柿をお届けてまいりますので、店頭で見かけた際には是非ご賞味頂きますよう、お願いいたします。



（全農福島ホームページ上にて検査結果を公開しております。）

J A 全農福島 HP <http://www.fs.zennoh.or.jp/product/vegi/furuit/anpo.html>

特集Ⅱ

JAふくしま未来 和田山氏が最優秀賞に輝く

～第49回JAグループ福島枝肉共励会（郡山会場）開催～

JAグループ福島肉牛振興協議会とJA全農福島は、11月19日（土）に、郡山市内の福島県食肉流通センターにおいて第49回JAグループ福島枝肉共励会を開催しました。

共励会前日におこなわれた「銘柄福島牛産地懇談会」では、肉牛生産農家をはじめ、JA関係者、買参人、福島県関係者らが参加し、福島県産の牛肉を使用した料理を味わいながら、今後の販売情勢や産地への要望等について情報交換をおこないました。

また、あわせて福島牛の消費拡大に関する取り組みの一環として「福島牛地場産消費拡大研修会」を実施し、株式会社ル・プロジェの企画制作本部長佐藤啓三氏より「福島牛の県内消費拡大に向けて」と題して講演をいただきました。現在のマーケットの状況や

福島牛のブランド力の認知度、効果的な広告方法等について、ポイントをしぼった分かりやすい講義で、更なる「福島牛」のブランド確立にむけて有意義な内容となりました。

共励会では、福島県内の肉牛生産者が肥育した「福島牛」の去勢54頭、雌26頭の計80頭が出品され、JAふくしま未来の和田山孝明氏の枝肉が最優秀賞の栄冠に輝きました。この枝肉は、霜降りの度合いを示す脂肪交雑が最も高い「No.12」で、「非常に迫力のある造りの良い枝肉でサシが均一に入っている」と評価され、枝肉単価5,011円/kgでセリ落とされました。他に、JAふくしま未来の鈴木廣直氏と、同じくJAふくしま未来の橋本勘一氏の枝肉が優秀賞を受賞しました。

共励会全体としては、平均枝肉

重量が522.3kgと昨年に比べ3.8kg増加し、平均単価は2,563円/kgで昨年に比べて63円/kg高い取引となりました。

福島県産の牛肉は、風評被害の影響から、枝肉単価では今だに他産地との価格差が見られますが、品質をみれば全国でもトップレベルの評価であり、今後は品質の向上とともに枝肉重量の増量についても産地として取り組みを進めてまいります。

私たちJA全農福島は、風評被害払拭のため、今後とも継続して福島県産畜産物の安全・安心についてPRし、復興の後押しをしてまいります。



▲最優秀賞 枝肉と和田山氏



▲最優秀賞 枝肉価格